



大西広 教授

専門:マルクス経済学

(インタビュアー:小原・山本)

Q1. 大西先生ご自身の専門分野はどのようなものですか？

近代経済学をもとに、マルクス経済学を研究しています。それというのも世の中の流れ、ロングトレンドといったものを議論するためでして、そのためにマルクス派最適成長論を用いたりしています。皆さんが社会人として成熟するのが50歳であるとする、あと30年もかかります。非常に長い期間ですよ(笑)。そしてその30年の間には社会というものは大きく変化しています。実際30年前と今ではなににおいても、全く変わってしまいました。ですので、ロングトレンドといったものを理解することは非常に重要であると言えます。

私自身は、中国経済なども専門としています。少数民族問題が存在しているのはみなさんご存知だと思いますが、それを政治的視点とは違った観点で見えています。その民族ごとに生産様式といったものは異なります。長期的な視点で見るとそれは各々変化していくのですが、その変化の仕方はそれぞれ異なり、その間には摩擦が生じる事となります。

ですがこういったことはゼミでは教えていません(笑)。学生の皆さんには、ぜひ身の回りの事柄に興味をもっていただき、その見方について指導していきたいと思っていますからです。

Q2. 先生はどのような教育理念をお持ちでしょうか？

苦手意識を持ってほしくないですね。ゼミではマルクス経済学だけを教えているわけでも、近代経済学だけを教えているわけでもありません。マクロ経済学もミクロ経済学も、また数学も基礎にしています。そのため、この分野は苦手だから…と思う学生さんもいらっしゃるかもしれませんが、ゆっくり学べば実際なんとかなるものです。理解できるものなんです。ぜひそう思って勉強に臨んでほしいと思います。もちろん私自身も、学生が理解できるようになるためには、努力は惜しまないつもりです。精一杯、歩調を合わせて指導していきます。

Q3. 大西先生はどのような学生時代を過ごされましたか？

私が学生の間は、ずっと学生運動に明け暮れていましたね。このこと1つに集中していたため、これはやったぞ、とはっきり断言できます。学生時代に何をしたんだろう…とならずに済み、よかったです。学生運動のピークは1960年代で、私がいた京都大学では1970年代においても学生運動がさかんでした。1,2年のころは、1,2年の全学生を対象とした学生自治会の再建を、3,4年のころは暴力一掃闘争、といったことをやりましたね。つらく、眠く…大変でしたが、とにかく楽しかったです。充実していました。

Q4. どのような考えを持った生徒さんにゼミを志望してほしいですか？

ゼミには例年、マルクス経済学と聞き労働問題を学びにくる生徒が多いです。もちろんそれもやりますし、そういった生徒を否定する気もありません。ですが、少しはミクロ等の理論的なこともやります。ですので、様々なことに関心をもった人に入ってきて欲しいです。それはもちろん勉学の話だけではなく、世の中のロングトレンド、といった身の回りのことも含めて、です。

Q5. 最後に、2年生に向けてメッセージをお願いいたします。

マルクスもやろう。この30年間で社会は大きく変わりました。労働の分野でも、ブラック企業、なんてのも出てきましたね。アメリカに対する価値観、信頼といったものもずいぶん変わってきて、これから30年もたたないうちに、世の中は更に大きく変わります。幸い私は、その流れを見ることができそうです。しかし君たちは、もっと長く見ていられる。その流れの見方、というものを是非学びましょう。